

SOMNEED-JICA 草の根技術協力事業

数字で見る VVK 活動

成果報告書

ビシャカパトナム都市近郊の低所得者を対象とした
マイクロレジット強化プロジェクト
2010年3月～2011年7月（16カ月間）



2011

はじめに

「数字で見る VVK¹活動」は、ビシャカパトナム都市近郊の低所得者を対象としたマイクロクレジット強化プロジェクトの成果報告書である。このプロジェクトは、2010 年 3 月 15 日から 2011 年 7 月 15 日までの 16 カ月間、JICA 草の根技術支援協力事業緊急経済危機対応包括型というスキームで実施されたものである。

本報告書は、2010 年度および 2011 年度の VVK 会計報告書と 2011 年 7 月に実施したフィードバック調査結果を主にベースにしているが、その他に 2006 年度以降の年度別 VVK 会計報告も参考にした。尚、フィードバック調査項目作成にあたっては、JICA インド事務所の担当職員 2 名からのご助言をいただき、調査および本報告書に反映させていただいた。

VVK、SOMNEED INDIA（現地カウンターパート）との緊密な連携と協働により、16 カ月間という短期間ではあったが、本報告のデータが示すような成果が得られた。また、同プロジェクト実施にあたって、事業申請から最終報告まで、インド国内外で、バックアップ支援をしてくださった JICA 中部国際センター、JICA インド事務所をはじめ、多くの JICA 関係者の皆さんがあつての成果であり、改めて感謝申し上げます。

本事業は終了したが、この成果が一過性のものでないと証明できなければ、本事業の上位目標であった「低所得者用集合住宅に住む世帯の生活が向上」が達成されたことにはならない。そのためにも、ソムニードは、貸付業務や会員管理ソフトの運用指導や運営委員会およびスタッフへの業務指導を中心とした支援を今後も継続実施してゆく予定である。

本報告書のデータ分析には、未だ不十分な箇所もあるが、大枠で本事業の特徴を表す数字を抽出したつもりである。本報告と同時に発行された「The Record of the Training Manuals」と併せて、本事業の成果報告としたい。

2011 年 7 月
特定非営利活動法人ソムニード

¹ Visakha Vanitha Kranthi の略称。2004 年から 3 年間実施されたソムニード・JICA 草の根技術協力事業パートナー型「都市近郊農村部の女性自助グループと都市スラムの女性自助グループの連携による新たな産直運動構築と自立のための共有財産創出（略称：PCUR-LINK プロジェクト）」事業実施中にソムニードの技術支援で設立された女性による組織。VVK は、2006 年にアーンドラ・プラデッシュ州 Mutually Aided Cooperative Act 1995 に登録して以来、会員制による少額の貸付業務を中心とした活動を行ってきた。

目 次

1. はじめに	1
2. マイクロクレジット強化プロジェクトとは	3
3. 16カ月の事業実施カレンダー	4
4. 数字で見る VVK 活動成果報告	5



マイクロクレジット強化プロジェクトとは

本プロジェクトは、インド共和国アーンドラ・プラデシュ州ビシャカパトナム市郊外の Valmiki Ambedkar Awasa Yojana Colony (通称 Vambay コロニー)を主に対象としている。

同コロニーは、貧困ライン以下の都市スラムに暮らす住民の居住環境改善を目的に、インド政府による低所得者層向け住宅供給事業の一環として建設された。現在約 3,000 世帯が暮らしているが、そのほとんどは、市内のスラムに暮らしていた低所得者層である。低所得者層の自助努力を基本理念としたマイクロクレジット活動において、インドは先進的な役割を果たしており、一説によれば、全国に 200 万を超えるマイクロクレジット・グループが存在するといわれている。また、アーンドラ・プラデシュ州は、その中でもとりわけマイクロクレジット活動が盛んな地域で、全国のグループ数の約 3 分の 1 に当たる 50 万グループが活動しているといわれている。

ソムニードは、先行プロジェクト (JICA 草の根技術協力) で、VVK を立ち上げ、女性たち自身の自助努力によるマイクロクレジット活動を行い、事業終了後も、VVK に対し定期的な技術的支援を行ってきた。しかしその支援は、VVK から提出される数値をそのまま利用した会計報告に対し助言するに留まり、数値そのものの信ぴょう性や、VVK が会則に基づいて運営されているかどうかを、活動 1 つ 1 つを詳細にモニターするものではなかった。2006 年の結成時に比べ、ローン貸付高で約 8 倍、会員数で約 6 倍の規模となったが (2009 年 3 月末時点)、それにつれて、郊外からの参加も徐々に増え、運営委員会のメンバーに上述の Vambay Colony の住人が加わるに至った。その同コロニー居住の委員から、「これまで所属していた SHG から離れ、同コロニーに移住したことで、マイクロクレジット利用の機会が喪失した住人が多い。VVK がその機会を提供できないか」という要請があった。

2009 年 3 月に同コロニーで 822 世帯を対象としたベースライン調査を行い、その分析を行った。本プロジェクトは、そのような過程を経て形成されたものである。そこで、本プロジェクトは、「低所得者用集合住宅に住む 3,000 世帯のうち、特に貧困ライン以下の世帯のキャッシュ・フローを改善する」ことを目標に実施された。VVK としてこの要請に応えるためには、同コロニーを対象とすると、少なくとも 1,000 名以上の会員を (当時の VVK 会員数は約 700 名) 同時にハンドル出来るだけのキャパシティーを持たねばならない。よって、この面での組織的、技術的キャパシティー・ディベロップメントを同時に行う必要がある。そのために VVK に新たに貸付業務、会員管理を行うソフトウェアを導入し、運営委員、スタッフ、全会員を対象にした様々な研修を通じて、集合住宅でのマイクロクレジット・グループ活動が活性化され、マイクロクレジット・グループの運営能力の向上、低所得者層が計画的な借入、資金運用が出来るようになることを目指した。

16 カ月の事業実施カレンダー

期間：2010 年 3 月 15 日～2011 年 7 月 15 日

年月	主な活動
2010 年 3 月	● マイクロクレジット強化プロジェクト開始
4 月	● 指導員研修「研修 1 内部資金ローテーションと帳簿付け」
5 月	● 指導員選抜実地テスト
6 月	● 全会員対象研修（研修 1）
7 月	
8 月	● 全会員戸別調査
9 月	● 貸付業務・会員管理ソフト発注 ● VVK スタッフの会則違反発覚と貸付業務緊急停止
10 月	● 指導員研修「研修 2 VVK の会則」 ● VVK 会員総会・半期報告
11 月	● VVK 新スタッフ体制による貸付業務再開始
12 月	● 全会員対象研修（研修 2）
2011 年 1 月	● 指導員研修「研修 3 VVK ローン運用方法」
2 月	● JICA 中部国際センター&JICA インド事務所より現地モニター ● 全会員対象研修（研修 3） ● 指導員研修「研修 4 家計の改善」
3 月	● 全会員対象研修（研修 4）
4 月	● VVK 会員総会・新運営委員選出 ● 新運営委員を対象にした研修 ● VVK スタッフを対象にした研修 ● 貸付業務・会員管理ソフト試験運用
5 月	● 貸付業務・会員管理ソフト・データ入力
6 月	● 貸付業務・会員管理ソフト試験運用
7 月	● JICA インド事務所より終了時現地モニター ● 事業終了時フィードバック調査の実施 ● 貸付業務・会員管理ソフトウェア本格運用

VVK 会員の中から希望者を募り指導員を募集。SHG の 1 年間の帳簿付けをし、実地デモ研修に合格した指導員 12 名が選抜された。

ソフトに入力用データが事務所控えと各会員の通帳で異なることが判明。2 カ月におよぶ全会員を対象とした戸別調査でデータを修正。その間、予定していた指導員研修、全会員研修等を一時休止。

調査の結果、VVK スタッフの会則違反行為が判明。

研修 1 では、VVK の研修モニター担当者がモニターしていたが、指導員とモニター担当者で不正が発覚。以降、ソムニードスタッフが全研修をモニター。指導員の数は 10 名に。

これまで全会員対象研修に約 2 カ月要していたが、モニター時の指導員評価項目に「研修当日キャンセル禁止」を加えたところ、研修 3 は 1 カ月間、研修 4 はわずか 3 週間で全会員への研修が終了。

2010 年 11 月以降、VVK スタッフと運営委員への定期的な研修を実施。2011 年 4 月総会以降は、新運営委員の就任時研修と同時に、スタッフ能力向上のための評価シートを導入。運営委員によるスタッフ定期モニター体制開始。

VVK 会員の中から 9 名の調査員を選抜。2 日間の調査員研修後、VVK 会員 680 名（ランダム抽出）を対象に調査実施。

数字で見る VVK 活動成果報告

本報告書は、プロジェクト・デザイン・マトリックス（以下略 PDM:2010 年 3 月 1 日作成）にある各項目（PDM からの抜粋は、文中表記ゴシック体）に出来るだけ対応するよう努めた。

上位目標 (Overall Goal) ビシャカパトナム市近郊の低所得者用集合住宅に住む世帯の生活が向上する。

- ☑ 2011 年 7 月に行われたフィードバック調査の対象となった半数近くの VVK 会員が過去 1 年間で家計のキャッシュ・フロー不足が解消したと感じていることが判明²。このことは今年度の四半期（2011 年 4 月から 6 月）の貸付高が前年度の同時期（2010 年 4 月から 6 月）の約 3 倍、ローン利用者人数も約 6 倍となっていることに裏付けられている³。

プロジェクト目標 (Project Purpose) VVK（前回草の根技術協力で結成されたマイクロクレジット・グループの連合体）が、同集合住宅の、特に貧困ライン以下の約 1,000 世帯のキャッシュ・フローをマイクロクレジット活動の導入で改善し、生活向上を図る。

- ☑ 同市周辺のマイクロクレジット・グループ⁴では、ローン金額や返済回数をローン利用者個人が決めることは皆無である。すべてのローンは、その時々政府補助金の額、地元政府から課せられた銀行の SHG への貸出ターゲット額などから、一律に貸し出される。ローンの金額と毎月の返済額はローン利用者ではなく、銀行によって決められる。それに対して VVK は、「ローンの金額も、返済額（スケジュール）も自分で決める」という方針を 2010 年 11 月以降、実践し、VVK 会員がこれまでの SHG 活動の習慣で「いくら借りても 10 回返済」としていた暗黙のルールを覆そうと試みた。そうすることで、VVK 銀行の資金回転率高め、ローン利用人数を増やそうとした。全会員を対象とした 4 回シリーズの研修のうち、第 3、4 回目の研修は、VVK ローンとその家計への活用をテーマとしたが、研修がすべて終了した 2011 年 3 月末以降、貸付高、ローン利用者数、短期返済ローンは着実に増加した。詳細は（表 1 貸付詳細一覧 2010 年 12 月～2011 年 6 月）を参照。

² フィードバック調査 2011 年 7 月（質問番号 13）

³ VVK 会計報告 2010 年度および 2011 年度（4 月～6 月報告分）

⁴ 現地では、Self Help Group の略 SHG と呼ばれている。

(表 1) 貸付詳細一覧：2010 年 12 月～2011 年 6 月

	2010 年 12 月	2011 年 2 月	2011 年 4 月	2011 年 6 月
最大貸付金額 (ルピー/人)	10,000	11,500	10,000	10,000
最小貸付金額 (ルピー/人)	500	1,000	1,000	1,000
平均貸付金額 (ルピー/人)	3,902	2,867	2,832	2,618
標準偏差(金額：ルピー)	2,238	2,839	2,332	1,790
最多分布区域 (金額：ルピー)	1,500～ 6,000	1,000～ 5,500	1,000～ 5,000	1,000～ 4,500
ローン利用者数	55	61	107	152
初回ローン利用者数	26	40	81	96
初回ローン/ローン利用者数 (%)	47%	66%	76%	63%
最大返済回数	12	10	14	10
最小返済回数	2	2	2	2
10 回返済 (人数)	38	4	26	35
10 回返済/ローン利用者数 (%)	69%	7%	24%	23%
最小返済回数(人数)	3	18	14	10
平均返済回数	9	5	6	6
標準偏差 (返済回数)	2	2	3	2
最多分布区域 (返済回数)	5～11 回	3～7 回	3～9 回	4～8 回

- ☑ 2010 年 8 月と 9 月に実施した全会員戸別調査では、過去 16 カ月 (2009 年 4 月～2010 年 7 月) のローン利用者 369 人のうち、初回ローン利用者はわずか 17 人であった⁵。その調査で明らかになったことは、一部の VVK スタッフや運営委員たちが VVK のローンを利用しているという事実であった。その他、スタッフの偽署名による偽ローン申請、領収書の未発行、VVK 事務所にある会員の取引記録と会員の通帳との金額の違い、などの多くのスタッフによる会則違反の事実が判明し、2010 年 8、9、10 月に一時的に貸付業務を停止した。その後、2010 年 11 月以降、本来の VVK 銀行の方針であった「少ない金額でも多く会員にいつでも利用可能なローンを提供する」を新スタッフおよび運営委員への研修、会員への研修などで徹底指導した。その結果、表 1 にあるように 2010 年 2 月以降は、常にローン利用者の 60%以上が初回利用者である、という成果が得られた。
- ☑ ローン利用者数は、2010 年 12 月以降、着実に増え続けている。2010 年 12 月の 1 人当たりの貸付高最多分布区域は 1,500～6,000 ルピーであったが、2011 年 6 月のそれは 1,000～4,500 ルピーとなり、1 人当たりの貸付高は減少している。一方、返済回数の最多分布区域は 2010 年 12 月に、5～11 回であったのに対し、2011 年 6 月には 4～8 回と返済回数も減少している。1 人当たりの貸付高が減り、短期返済ローンが増え、ローン利用者数が増えているということは、すなわち VVK の資金

⁵ VVK 全会員戸別調査 2010 年 8・9 月実施

回転率が向上したことを示し、VVK 銀行の方針「少ない金額でも多く会員にいつでも利用可能なローンを提供する」の実現を数字が裏付けている。

- ☑ VVK 運営委員たちは、この方針をさらにわかりやすく「10 万ルピーを 10 人が利用する銀行ではなく、100 人が利用し、すばやく返済し、VVK の資金を回転させ、より多くの会員がローンを利用できるようにする」と会員に伝えている。
- ☑ ローンの利用者数全体に占める、10 回返済を選ぶ会員の割合は、確実に減少している。第 3 回目の研修「VVK ローンの利用方法」直後の 2011 年 2 月、10 回返済を選ぶ会員は全ローン利用者の 7%と一桁台になった。第 4 回目の研修終了後も 10 回返済を選ぶローンは 20%前後にとどまっており、会員が自分の返済能力にあわせて返済回数を決めるという傾向が定着しつつある。
- ☑ フィードバック調査の対象となった半数近くの VVK 会員が、過去 1 年間で高金利の借入金が減ったと回答⁶。これは、2011 年 4, 5, 6 月に、VVK のローンを利用する会員が大幅に増えたことを反映している。

成果 (Output) 1 VVK が 1,000 名以上の貸付業務、会員管理が出来るようになる。

- ☑ VVK の会員数は 2010 年 3 月末の時点で 745 名。2011 年 6 月末の時点での会員数は 1,570 名となった。年度別の会員数推移は(表 2)を参照。VVK は、2011 年 5 月からソフトを活用し、貸付業務と会員管理を行っている⁷。

(表 2) 年度別 VVK 会員数推移

年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年 6 月末
会員数	98	554	625	555	745	1714	1570

- ☑ これまで手作業で行っていた貸付業務は、1 カ月平均、24.6 件 (2010 年 4 月～6 月の 3 カ月間の平均) であったが、貸付業務と会員管理ソフト運用とスタッフへの研修の成果で、1 年後の同時期 (2011 年 4 月～6 月の 3 カ月間の平均) には、158.3 件となり著しく貸付件数が増加した⁸。
- ☑ VVK の貸付日は、週 3 回 (火、木、土曜日) で、月に約 12 回の貸付日がある。1 日当たりのローン利用人数は、10 人から 15 人前後であるが、月半ば (第 2 週、第 3 週) には、1 日のローン利用人数が 40 人前後になる日も出てきている。ところが、ソフトの活用と、研修によるスタッフの処理能力の向上で、貸付業務は 1 人当たり、5 分から 10 分で処理することが可能になった。
- ☑ フィードバック調査では、95%以上の会員が、VVK の活動も過去 1 年間で活性化されたと回答している⁹。

⁶ フィードバック調査 2011 年 7 月 (質問番号 14)

⁷ VVK 会計報告 2010 年度および 2011 年度 (4 月～6 月報告分)

⁸ 同上

⁹ フィードバック調査 2011 年 7 月 (質問番号 17)

成果 (Output) 2 上記集合住宅でのマイクロクレジット・グループ活動が活性化され、マイクロクレジット・グループの運営能力が向上する。

- ☑ フィードバック調査では、調査対象となった 680 名のうち、402 名がマイクロ・クレジット・グループに所属していたが、そのうち 95%にあたる 382 名が、過去 1 年間でグループ活動が活性化されたと回答¹⁰。
- ☑ VVK ローンの特徴のうち、「保証人不要、低利子、貸付までの手続きの速さ、手続きの透明性」という 4 つの特徴のうち、調査対象の半数近く (46%) が保証人不要でローンが借りられるという点を評価していた¹¹。
- ☑ VVK 以外の貸付機関が、1 年から 3 年にかけて 1 度しかローンを利用できないのに対し、VVK は、少額のローンを低利子で借りる、返す、ということを繰り返せば、年間に 2 回以上、ローンを活用することも可能だということ 88%の調査対象者が理解していた¹²。

成果 (Output) 3 上記低所得者層が計画的な借入、資金運用が出来るようになる。

- ☑ 本プロジェクト開始当初(2010 年 4 月～6 月)の合計貸付高は、405,500 ルピーであったのに対し、終了時 (2011 年 4 月～6 月) の合計貸付高は、1,184,000 ルピーとなり、約 3 倍に増加している¹³。月別の貸付高一覧は、(表 3) を参照。

(表 3) 月別貸付高一覧(2010 年 4 月～2011 年 6 月)

月	2010 年 4, 5, 6 月	7, 8, 9 月	10, 11, 12 月	2011 年 1, 2, 3 月	4, 5, 6 月
貸付高 (ルピー)	405,500	303,000	402,000	416,500	1,184,000

- ☑ プロジェクト期間中に実施した VVK 全会員を対象にした 4 回シリーズの研修は、延べ 476 回の研修を行い、延べ 5,310 名の VVK 会員が参加した。各研修の主なテーマは次の通りであった。第 1 回：内部資金ローテーションと帳簿付け、第 2 回：VVK の会則、第 3 回：VVK ローンの利用方法 (貸付額設定の仕方・返済の方法等)、第 4 回：家計の改善。またソムニードは、VVK 会員の中から約 12 名の指導員を選抜し、指導員研修を実施し、これらの指導員が全会員への研修を担った。ソムニードはすべての研修をモニターした。ソムニードのスタッフは、指導員のパフォーマンスを、指導態度から教材準備、および参加者の理解度の確認といった指標を基にモニターした¹⁴。

¹⁰ 同上(質問番号 15, 16)

¹¹ 同上(質問番号 9)

¹² 同上(質問番号 7)

¹³ VVK 会計報告 2010 年度および 2011 年度 (4 月～6 月報告分)

¹⁴ 研修マニュアルやそのモニタリング方法の詳細は、別添“The Record of the Training Manuals”を参照。

- ☑ 2011 年 7 月、同プロジェクトのフィードバック調査を実施。VVK 会員の中から選抜された 9 名の調査員に、調査実施のための研修¹⁵を行い、VVK 会員の約 43%にあたる 680 名を対象に調査を行った。
- ☑ フィードバック調査には、4 回シリーズの研修の理解度を問う 4 項目（貸付高の設定方法、ローン活用方法等）があったが、研修参加者の正解率は、すべての項目で 90%を超えており、研修の成果が表れていた¹⁶。
- ☑ 第 4 回の研修は、低所得者層の計画的な借入と資金運用を可能にすることが主目的であり、1 年間の支出を月ごとに絵カードを用いて可視化した。支出の多い月に現金が不足することが視覚的に理解され、「その月」を事前に予測することができれば、計画的に VVK ローンを活用し、キャッシュ・フロー不足を補うことが出来る、と提案した。但し、指導員が直接その提案をするのではなく、研修参加者が自ら気付くような研修をデザインした。フィードバック調査では、最も印象に残っている研修は何かという質問に、半数以上が第 4 回目の「家計の改善」研修を選択した¹⁷。

¹⁵ 調査項目の詳細は、別添(同上)を参照。

¹⁶ フィードバック調査 2011 年 7 月(質問番号 3, 4, 5, 6)

¹⁷ 同上(質問番号 2)